





荒木千恵子美術館

独創的な「刺繍絵画」作品などを常設展示
荒木さんの生前の想いが美術館として結実

令和8年3月に89歳で永眠した洋画家・刺繍画家の荒木千恵子さんの作品を展示する「荒木千恵子美術館」が、10月1日にぐんま未来大学ホールPAL（笠懸野文化ホール）のホワイエに開館した。

荒木さんは昭和11年に東京都墨田区で刺繍業を営む家庭に生まれた。戦禍を避け桐生市に移住し桐生女子高校を卒業後、女子美術大学で洋画を専攻し、大学卒業後に家業の刺繍技術を学ぶと、絵画と刺繍の技法を組み合わせ、糸で描く絵画「刺繍絵画」の分野を確立。平成16年に卓越した技能者を国が表彰する「現代の名工」の認定を受け、平成22年には黄綬褒章を受章した。武将や舞妓などを主題にした和風のものから海外の風景や動植物など、様々なモチーフから自ら描いた独創的な絵画をもとに横振り刺繍の技術を用いて刺繍糸で描いた荒木さんの作品は、極めて繊細で芸術性に富み、国内外で高く評価されている。桐生市内にギャラリー兼アトリエ「ルタンドォール」を開き創作活動を続ける傍ら、みどり市の「MIDORIジュニアアカデミー事業」の講師として令和5年度より子どもたちへ熱心に絵画の技術や魅力を伝えてきた縁から、みどり市へ「教育文化の向上に役立ちたい」という荒木さんの想いとともに作品が寄贈され、美術館の開設が実現した。

美術館では寄贈された70点近くの作品のうち常時約30点を展示する。1階には主に能舞台や歴史上の人物などを題材とした作品を、2階にはパステル画や水彩画も含めて海外を題材とした作品を中心に展示するほか、一角には実際に使用していたミシンを配するなどアトリエや客間を再現。荒木さんの技術と創作への想いが、当館の展示を通して未来へと受け継がれる。

【荒木千恵子美術館】
●住所／群馬県みどり市笠懸町阿左美1579-1
（笠懸野文化ホールPALホワイエ）
●電話／0277-77-1212
●営業時間／9：00～16：30
（文化ホール開館時間に則ります）
●休館日／毎週月曜（国民の祝日、または振替休日のときは、その翌日）、年末年始（12月27日～1月5日）、ホール利用日
※事前に必ず文化ホールに電話連絡し、開館しているかご確認ください。
●入館料／無料